

米 一 揆

本庄榮治郎

序言—享保ノ打毀—天明ノ打毀—天保ノ打毀—慶應ノ打毀—結言

一 序 言

米一揆ハ大正戊午ノ歲ニ至リテ始メテ起リタルモノニ非ス。米穀ガ單ニ國民生活ニ於テノミナラス政治經濟上ニ於テ現今ヨリモ一層重大ナル意義ヲ有セシ德川時代ニ於テ、既ニ再三同一事件ノ存セシコトハ言フ迄モナキ所ニシテ、カノ天明ノ打毀ウチコロヘシノ如キハソノ最モ顯著ナル事例トス。而モ事實ハ之レノミニ止ラス頻々トシテ之レ有リ、殊ニ天明前後ノ時代ト對照シテ常ニ治平ヲ以テ鳴レル享保ノ頃ニ於テモ尙米騒動ハ存シタルナリ。人或ハ大正ノ米一揆ヲ以テ盛世ノ不祥事トナス。コノ言ハ又以テ享保ノ打毀ニ應用シ得ヘキ歟。以下少シク德川時代ニ於ケル打毀ニツキテ説ク所アラントス。

二 享保ノ打毀

享保十七年七月西國中國四國方面蝗害アリテ不熟凶作甚シク、九月以後米價一時ニ暴騰シ米一

石百三十目ヨリ百五十目ニ上レリ(十六年米、四)。幕府ハ凶荒賑恤ノ爲メニ物成半減以上ノ諸侯ニ對シ官金ヲ貸與シ、又虫害地ニ拂下米ノ輸送ヲナセルコト頗ル多ク、江戸大阪等町民ノ困窮セル者ニ對シ救助米ヲ與フル等ノ手段ヲ採リシガ、調節策トシテ行ハレタルモノハ主トシテ廻米ヲ増加スルノ方法ニ存シタルカ如シ。九月十月北國米東國米ノ廻送セラルルモノ三百萬石以上ヲ出テ米價稍々緩和セシカ如シト雖、依然高直ヲ維持シツツ享保十八年正月ニ入りシガ、幕府ハ前年來ノ救濟策并ニ廻米政策ヲ續行シ、且米ノ買占買置ヲ禁シ、并ニ買置米ノ賣出ヲ令シ春季ノ酒造ヲ停止シテ醸造ノタメ買置ケル米ヲ賣出サシムル等種々ノ方法ヲ行ヒシガ、正月二十六日夜、遂ニ江戸ニ於テ打毀ノ暴舉ヲ見ルニ至レリ。⁽²⁾草間伊助筆記ニ曰ク『於江戸米高直ニ付、本所麴町ヨリ願出候ハ此節渡世難儀仕候、必死ノモノ共何卒半舍被仰付被下候様ニ願申候由、右願ヒ相叶不申候ハバ當地問屋之内高間傳兵衛ヲ始メ七軒之問屋共、市中へ被下置候様ニ願出申候由、此儀ハ御取上ケ無之儀勿論之事、依之江戸市中ノ者トモ、船町高間傳兵衛本店へ二三千人程押寄セ亂入仕、家諸道具不殘打崩シ、家内之者共怪我人餘程有之、江戸市中大騒動仕候、全高間傳兵衛米穀買占高直ニ賣出シ、諸人ヲ難儀爲致候ヨシニテ右之通騒動仕候。御當代ニ至リ候而市中之モノ共町人家宅ヲ打崩シ候儀是始而也』ト。⁽³⁾以テ當時ニオケル細民困窮ノ狀ヲ想見スヘク、米問屋襲撃ノ行ハレタルコトヲ知ルヘシ、タゞ高間傳兵衛ハ米價ヲ調節シテ細民ヲ救ハントスル志アリ、而モ誤

(1) 拙稿、享保年間ノ米價調節、本誌一卷四號。拙著、江戸幕府ノ米價調節、296頁

(2) 徳川實記、五編、1079頁。月堂見聞集 (近世風俗見聞集第二所收) 267頁

(3) 大阪市史、第五、812頁

ラレテコノ厄ニ會シタルモノナリトノ説アルモ眞僞明カナラス。⁽⁴⁾幕府ハソノ後、上述ノ諸政策ノ外、前後二回ニ亘リテ官米ノ廉價拂下ヲナシ、又一方ニ、窮民ニ施米等ヲナシ以テ米價ノ引下ニ力メタルガ幸ニモ十八年秋ヨリ諸國豐饒ナリシタメ米價漸次下落スルニ至レリ。⁽⁵⁾

其後寶曆五年諸國不作ニテ米價高直ナリシガ九月大阪市中ニ於テ和泉食佐太郎米買占ノ風聞アリ、其他ノ買占者ト共ニソノ家々ヲ打壞ツヘキ風説アリシガ、コノ風聞ニ恐レテ諸方ヨリ米ヲ出シ、米價俄ニ十匁餘下落シタリトイフ。⁽⁶⁾

三 天明ノ打毀

以上述フル如ク米一揆ハ早ク既ニ享保ニソノ例アリ、又後ニ天保慶應ノ打毀アリト雖、ソノ最も熾烈ニシテ各地方ニ亘リ史上ニ著聞スル所ノモノハ即チ天明ノ打毀ナリ。而シテ世上ニ所謂天明ノ打毀ハ天明七年五月ノ米騒動ヲ指スカ如シト雖、爰ニハ之レノミニ限ラス天明年間ニオケル數度ノ打毀ニツキ述フル所アラントス。

思フニ明和天明ノ頃ニハ天變地妖相ツイテ起リ、大風噴火旱魃相前後シテ災害ヲ逞クシ、ガノ天明ノ飢饉ノ如キハ最も悲慘ナル狀況ヲ呈シタリ。而シテ百姓町人ハコレ等ノ災厄ニヨリテ苦メラレシノミナラス、此時代ニ於テ幕府カ財政ノ窮乏ヲ救ハンタメニ採リシ種々ノ政策例ヘハ貨幣

(4) 日本橋區史、第四、547頁、

(5) 前掲拙稿及拙著參照

(6) 草間伊助筆記 (大阪市史第五所收) 833頁

ノ改鑄、富源ノ開發、國産ノ獎勵、座及運上ノ制度、融通政策ノ如キハ偶々以テ百姓町人ノ負擔ヲ増加スルコトトナリ遂ニ彼等ヲ驅テ一揆騷動ヲ企ツルノ已ムナキニ至ラシメ、カクテ單ニ米一揆ノミナラスソノ他農民ノ強訴等種々ノ暴動ハ隨時隨所 行ハレ、以テコノ時代ノ特色ヲナスニ至リシモノナルガ、彼等カ從來ノ如ク徹頭徹尾武家ニ屈從シソノ壓迫ヲ甘受スルコトヲナス、之ニ對シテ屢反抗ノ態度ヲ持スルニ至リシコトハ、即チ武士階級ノ勢力失墜ヲ示スト共ニ、又平民階級ガ自己ノ地位ヲ向上セントスル努力ヲ示スモノトモ考フルコトヲ得ヘク、言ハバ民意伸張、民權發達ノ一片影ヲ現ハスモノトモイフヲ得ヘキ也。⁽⁷⁾

(イ) 天明三年ノ打毀。天明二年諸國不熟ニテ六分ノ作柄ナリシカハ米價ハ漸次昂騰シ一月乃至五月ハ肥後米一石六十匁前後ナリシモノガ十二月ニハ一躍シテ七十五匁一分トナリ翌年正月ニハ更ニ七十九匁八分乃至八十二匁トナレリ。⁽⁸⁾ 偶々大阪玉水町加島屋久右衛門、堂島新地一丁目松安庄右衛門等米買占ヲナシタリトノ風聞アリ、其居宅ヲ破壊スヘシトノ張紙アリシガ、二月朔日群集之ヲ襲ヒ打毀ノ暴舉ヲ演セシカハ、町奉行ハ令ヲ發シテ暴舉ニ加ハリ或ハ之レカ見物ニ赴ク可ラサルコトヲ諭シ、米油薪綿其外諸色ノ買占ヲ禁シ窮民ヲ調査シテ施行ヲ獎勵シタルガ、尙風說張紙ヲナシテ買占者ノ居宅破壊ヲ煽動スルモノ頻々タリシヲ以テ風說張紙ヲナスコトヲ禁シ、之ヲ處罰スヘキ旨ヲ命セリ。⁽⁹⁾ 而シテ五月ノ米價ハ七十六匁六分ナルヲ以テ正月ニ比スレハ多少ノ

(7) 辻博士著、田沼時代、116頁以下、135頁以下、260頁以下。

(8) 三貨圖彙 (日本經濟叢書卷二十八) 167頁、米相場考、56頁。

(9) 大阪市史、第一、975頁、卷三、992頁、堂島舊記 (徳川時代商業叢書第二所收) 164頁。

下落ヲ示セルモノナレトモ、六月ニハ關東方面出水アリ七月ニハ淺間山噴火シテ附近田畑ノ損亡スルモノ多ク、加フルニ氣候不順ニシテ八九月ノ交猶冬ノ如ク寒氣甚シカリシカハ米穀實ラス、米價漸次騰貴シ、八月ニハ九十二三匁、十二月ニハ九十八匁ニ及ヘリ。幕府即チ米ノ買占空米切手ノ發行ヲ嚴禁シ粥ヲ食シテ有米ヲ喰延スハシト達シタルモ米價ハ愈騰貴シ翌四年一月ニハ百十五匁七分、六月ニハ百十一匁三分トナレリ、其後幕府ハ米買占禁止、米仲買ノ檢舉、米穀他所賣禁止、官米廉賣、窮民救恤等種々ノ方法ヲトリシガ、同年秋豐作ノ聞アリ、米價漸次下落シ十二月仕舞相場六十六匁乃至八匁六分ニシテ翌年ニハ六十九匁乃至六十匁トナルニ至レリ。⁽¹⁰⁾

□天明七年ノ打毀。天明六年氣候不順ナルニ加ヘテ關東方面大出水アリ、凶作ノ地方多ク殊ニ前年ニハ大阪町人ニ對スル用金令アリ本年六月ニハ諸國寺社山伏百姓町人ニ對スル用金アリ、市況振ハス、將軍更立シ、老中田沼意次斥ケラレ、用金令ノ中止ヲ見ルニ至リシト雖、作柄ノ豐凶ニヨル影響ハ如何トモスル能ハス、或ハ正路ニ廣ク賣買ヲナスヘキコトヲ論シ、或ハ酒造半減ヲ命セシト雖、當年ノ秋納半年ノ三分ノ一ニ止マリ、十二月相場肥後米百一匁五分ヲ示セリ、翌七年正月五日大阪ニ於テ米一萬石ヲ買上ケテ江戸ニ廻送シ米價ヲ高クスルコトヲ禁シ、又餘分ニ米穀ヲ貯ヘ又ハ他所ヘ賣渡スコトヲ禁シタルモ、市場在米ノ拂底ハ⁽¹¹⁾（舊版濱方越年米百二萬六百五匁、本年四月末日有米高四十二萬四千匁）米價ノ騰貴ヲ一層大ナラシメ五月ニハ百七十七匁迄上レリ。去秋以來諸色高直ノ爲メ饑渴ニ迫レル

(10) 前掲拙著、299-301頁。

(11) 前掲拙著、301頁。

細民等ハ、五月十一日夜多數相率ヒテ天滿伊勢町ノ茶屋吉右衛門ノ居宅ヲ襲ヒ、家作諸道具ヲ破壊シ、翌十二日ニハ搗米屋(白米小)ヲ襲ヒ、錢百文ヲ出シテ二升三升ノ米ヲ押買シ、若シ諾セザレハ米雜穀ヲ引出シ或ハ家宅ヲ破壊シ、被害者二百餘軒ニ及ヘリ。之レカ爲メ米穀商ハ勿論其餘ノ商賣ノ者ト雖恐怖シテ休業スルモノ多ク、小買米ニテ其日ヲ送レル者ヲ始メ其他良民ノ日常生活ニモ差支フルノ有様ヲ呈シタルガ、幕府ハ暴舉ニ附和スルハ勿論、見物ニモ罷越間敷旨ヲ命シ、一町毎ニ番人ヲ置キテ守ラシメ又殿ニ暴民ヲ逮捕シ窮民ヲ調査シテ谷町ヨリ手當ヲナサシメ、尙一般ニ施行ヲ奨勵シ、小賣米屋ニ保護ヲ加ヘテ不法強買者ヲ訴出テシメシカ、小賣商人等ハ店頭ニ丸太ノ垣ヲ作り、垣ノ間ヨリ米錢ヲ授受セルモノモアリシトイフ。⁽¹²⁾

然ルニ細民ノ暴動ハ單ニ大阪ノミニ止ラス殆ノト時ヲ同シクシテ京、伏見、奈良、郡山、、堺和歌山、山田、甲府、駿河、廣島、長崎、石卷等近畿東海中國九州東北各地ニ起リシガソノ最モ激シカリシハ江戸ノ打毀ナリ。江戸ノ張紙相場ハ豐年ノ歲ニハ百俵ニツキ十七八兩ノコトモアリシガ天明七年春ニハ百八十兩トナリ五月中旬頃最高二百十二兩ニ上リ諸氏ノ困窮甚シカリシガ、五月十八日ニ至リ本所扇橋邊深川六間堀邊ニテ玄米屋春米屋ヲ破壊シタルヲ始メトシ、二十日ニハ赤阪御門外ナル米屋ヲ打毀チ京橋南傳馬町三丁目ノ萬佐ト稱スル有名ナル米問屋ヲ襲撃シ、二十二日ノ曉方ニ至ルマテ各處ニ騷擾シ、米商ハモトヨリ乾物屋酒屋ナドノ誤テ害ヲ蒙ルアリ富商

(12) 大阪市史、第二、4頁以下、第三、1180頁以下、堂島舊記、119頁以下。

(13) 後見草(改定史籍集覽第十七册717頁及燕石十種第一455頁)ニヨル

亦ソノ災厄ニ會ヒ「南ハ品川、北ハ千住、凡御府内四里四方ノ内、誰頭取トイフコトナク此所ニ三百彼所ニ五百思ヒ思ヒニ集リテ鉦太鼓ヲ打ナラシ更ニ晝夜ノ分チナク穀物ヲ大道ヘ引キ出シ、切り破リ奪ヒ取、八方ニ持退キタリ初ノ程ハ穀物バカリ奪ヒシガ後ニハ盜賊加ハリテ金銀衣服ノ類ヲモ同シ様奪ヒ取リ」シトイフ。(14)

二十二日ニ至リ俄ニ出兵ニ決シ町奉行出馬シ先方手十人ニ命シ組々ノ者ヲ召連レ市中ヲ巡視シ暴民ノ逮捕ニ從ヒ漸ク鎮靜ニ歸シタルガ、幕府ハ四民ニ令スルニ朝夕粥ヲ食シテ消費ヲ節約スヘキコトヲ以テシ、又米雜穀ヲ廉賣シ金二萬兩米六萬俵ヲ出シテ窮民ヲ賑恤シ、關東郡代伊奈半左衛門ヲシテ廻米ニ廻米ニソノ力ヲ致サシメ、大阪ニ於テ三萬五千石ノ米ヲ買上ケテ江戸ニ廻送セシメ、酒造三分ノ一ヲ命スル等種々ノ方法ヲ採リシガ、在米ノ増加ニ伴ヒテ米價下落シ張紙相場モ百三十兩トナリ、諸色直段ノ下落ヲ見タルガ、大阪ニオケル米相場ニツイテモ六月ノ肥後米百八十七匁ヲ最高トシテ漸次下落ノ色アリ、當秋諸國八九歩ノ作柄ニテ人氣次第ニ鎮靜シ十月ニハ七十七匁前後、十二月ニハ八十匁前後ニ降レリ。(16)

(八)天明八年ノ打毀。翌八年正月京都大火アリ、爲ニ大阪ニ於テ米穀ソノ他高直ニナスヘカラサルコトヲ論シ、一般ニ米穀ノ買占ヲ禁シタルガ二月五日大阪ニ於テ「米穀メ賣酒隠造リ致シ候モノノ家居エ大勢徒黨及狼藉ニ候者召捕其所ヨリ可訴出事」ヲ令シタルヨリ見レハ當年亦多少ノ騷擾ハアリタルモノノ如シ、六月頃米穀拂底ノ趣ナリシモ、諸國八九歩ノ作柄ニテ士民安堵シ、六

(14) 後見草、(15) 江戸打毀ノ狀況ナ記セルモノ甚多シ其二三例示レハ、御
 除卷(百家談林正編上、120頁)、燕石十種第一、天明丁未年
 戸飢臘助之事(改定史籍集、近世風俗見聞集、三、45頁)、天明一家訓林四七、
 頁五、564頁) 實曆理來集(近世風俗見聞集、三、45頁)、天明一家訓林四七、
 卷十五、133頁)、蒐園小説(百家談林正編下、701頁) 續ノ標識(澤知壽

七月ノ頃八十匁以上ナリシ米價ハ十月ニハ六十六匁トナリ以後益下落ノ勢ヲ呈スルニ至レリ。⁽¹⁷⁾

四 天保ノ打毀

(1) 天保四年ノ打毀。天保年間ニハ凡二回ノ米一揆アリ。ソノ一ハ天保四年ノ播州一揆ナリ。同年六月出羽大洪水アリ奥羽飢饉トナリ、八月朔日^(二百)ニハ關東大風雨アリ、前年來概シテ七十匁前後ヲ唱ヘタル米價ハ七月八十七匁四分トナリ八月ニハ九十四匁七分トナレリ。九月ニ至リ十三日ヨリ二十日マテ播州多可郡ニ暴民蜂起シテ富家ヲ破壊シ物情恟々タリ。大阪ニ於テモ浮説張紙頻リニ行ハレ堂島帳合商中止ヲ見ルニ至リシカ、一方ニハ吏ヲ派シテ暴徒ヲ捕縛セシメ、他方ニハ市民ヲ戒メテ流言蜚語ニ迷ハサルルナカラシムコトヲ以テシ米錢ノ施興行ハレ、米ノ買占圍持ヲ禁シ、小賣米モ正當ノ直段ヲ以テ賣捌ク。ク町々圍米又ハ町人圍米ヲモ勝手次第賣出スヘキコトヲ命シ、官米ヲ廉賣シ、酒造ハ三分ノ二トシ又米穀ノ見越買ヲ禁シ、消節ノ節約ヲ命シ喰延策ニヨリテ成ルヘク在米ヲ維持セントシ、糧米焚方傳、救民安逸傳、飧食教冊、日用食鑑、竈ノ賑ヒ等米穀ヲ節約シテ口腹ヲ充スニ足ルヘキ調理法ヲ説キタル小冊子ハ江戸大阪等ニ於テ屢刊行セラレタリトイフ。⁽¹⁸⁾ 盖大正ノ米一揆ニ外米調理法ノ種々研究發表セラレタルト相似タリトイフ可シサレト米價ハ依然トシテ高ク九月百十三匁五分ナリシモノ十二月仕舞相場ハ百十九匁一分ニ上レ

(17) 大阪市史三、1240頁。前掲拙著302頁。

(18) 拙稿天保度ノ米價調節、本誌第六卷二號、177頁。大阪市史二、460頁

リ當時ニ於テハ外米輸入ノ途モナク、前述ノ如キ凶作ハ入津期ニ至ルモ尙在米拂底ノ聲ヲ絶タサ
リシカ、五年秋納良好ナリシタメ米價次第ニ下リ同年十二月ニハ七十一匁五分トナレリ。⁽¹⁹⁾

(□) ソノ二ハ天保七年九月二十四日大阪ニオケル暴動一件ナリ。同年又未嘗有ノ凶作ニシテ山陽
南海ノ五歩五厘作ヲ最良トシテ奥州ノ如キハ二歩八毛作ニテ全國平均四歩二厘四毛作、内古米喰
込高一分二厘ヲ引クトキハ差引三步四毛作ニ當ルトイフ⁽²⁰⁾。サレハ米價ハ同年六月ニ於テ既ニ
百三匁五分トナリ、九月ニハ百四十匁二分ニ上リ、幕府ハ此間ニ處シテ不正商ヒヲナシ、又過分
ニ買米スルモノヲ召捕ヘ、又不正概ヲ用ヒタル米屋二十三人ヲ入牢セシメ、或ハ浮説ヲ禁シ町々
又ハ町人圍米ヲ賣拂ハシメ、酒造三分ノ一ヲ命スル等種々ノ方法ヲ行ヒシガ九月ノ暴動ハ高津五
右衛門町某雜穀賣拂方ニ奸曲ノ事アリト稱シ、暴民相集リテ其居宅ヲ襲ヒ之ヲ破壊スルニ至リシ
ナリ。町奉行所ハ吏ヲ派シテ暴民ヲ逮捕スルト共ニ、一方ニハ正路ノ賣買ヲ促シ他方ニハ多數群
集スルコトヲ禁シタリトイフ。⁽²¹⁾翌八年二月ニオケル大塩ノ亂モ、米價騰貴シ國民困苦セルニ際シ
テ幕府ノ施設スル所、富商ノ賑恤スル所ソノ當ヲ得サルモノ多キヲ慨シタルコトソノ原因ノ一ナ
リト認メラルルヲ以テ是レ亦米一揆ト相交错スル處アリトイフヘキ也。カクテ同期ノ米價ハ七年
十月ニ百四十四匁ニ上リ其後次第ニ騰貴シテ八年六月ニハ二百五十匁トナリソレヨリ漸次下落シ
テ八年末ニハ九十四匁五分トナリシモ尙九年氣候適順ナラサリシタメ又々十月百二十七匁トナリ

(19) 天保舊記、米價調節、178頁
(20) 天保舊記、米價調節、180頁
(21) 天保舊記、米價調節、180頁
(22) 天保舊記、米價調節、180頁

十年夏ニ至リテ漸ク下落スルニ至レリ。⁽²⁴⁾

五 慶應ノ打毀

當時ハ天下騷擾ノトキナレハ諸物價著シク騰貴シ之ニ伴ヒテ米價モ亦甚シキ暴騰ヲナシタリ。

慶應元年正月肥後米一石二百七匁五分ナリシモノ、二年正月ニハ四百七十三匁、五月ニハ六百四十六匁トナル。⁽²⁵⁾ ココニ於テカ又日々ノ生活ニ困窮セル細民ハ五月八九兩日ニ亘リ兵庫西宮灘池田

伊丹各地ニ於テ暴動ヲ起シ、ヒイテ大阪ニ及ビ、十三日夜木津難波邊ニ打壤騷動起リ、十四日雨

ヲ冒シテ多數ノ窮民搗米屋ヲ襲ヒ、白米一升ヲ二百文(時價一升七百文)ニテ強買シ若シ之ニ應セサレハ直

ニ家宅ヲ破壊スル等騷擾ヲ極メタリ。而シテ暴舉ハ同日限りニテ收マリシモ尙附近諸方ニ於テ十

七日ニ至ルマテ不穩ノ状態ニ在リシトイフ。但今回ノ暴動ニヨル被害ノ家數ハ八百八十五軒ニシ

テ三百六十六町ニ跨リ暴民ノ爲メニ奪去ラレシ白米ハ千四百六十一石二斗二升五合ト四百八十四

俵、玄米三百〇三石七斗三升、餅米三十石八斗六升ト三十五俵、麥十七石八斗一升ト五十五俵、

穀物八十七石七斗四升五合ト八十八俵ヲ算シ、彼等カ殘シ置ケル金額ハ錢六千五百十八貫五百六

十一匁、金四十一兩三分二朱ナリシトイフ。カクテ一方ニハ暴民ヲ逮捕スルト共ニ、後難ヲ恐レ

テ米搗立賣出方ヲ止ムル者ニ對シ、平素ノ如ク日用米ノ小賣ヲナサシメ、其外面替屋并諸商人ニ

(24) 米相場考、96頁以下。天保度ノ米價調節、176頁。

(25) 米相場考、135頁以下。

モ聊モ危踏ナク平素ノ通り營業スヘキコトヲ命シ、窮民ヲ調査シテ極貧者ニ粥ヲ施シ、又臧屋敷ニ命シテ拂米ノ潤澤ヲ計ラシメ、市民ニ諭シテ止宿者ノ調査及市内ノ取締ヲ嚴ナラシメタリ。⁽²⁶⁾

然ルニ江戸ニ於テモ亦同月二十八日夜、暴民南品川ニ起リ同所界限ノ家ヲ打毀スコト四十軒ニ及ヒ、風ヲ望ンテ暴民隨所ニ蜂起シ米錢救助ノ沙汰アリシカンノ恩惠ニ漏レタルモノアリテ九月ニ至リ又々暴動トナリ富商米家ニ迫リテ救恤ヲ求メ携ヘタル大釜ニテ直ニ之ヲ焚キテ其場ニテ打喰ヒ、又法恩寺ニ屯集シ卒塔婆ヲ薪トシテ飯ヲ焚キテ徹宵露宿シ、市中騒然タリシガ、幕府ハ敕小屋ヲ建テテ救助ニ力メ富家モ米錢ヲ施與シ漸ク之ヲ鎮撫ヘルコトヲ得タルガ、翌二年ニモ亦細民ノ暴舉行ハレタリトイフ。⁽²⁷⁾

サテ米價ハ右ノ暴動ニヨリテ多少ノ下落ヲ見タルカ如シト雖、コハ全ク一時ノ現象ニシテ偶々征長事件ノ風雲頗ル急ニ、六月七日征長ノ勅諭ヲ見ルニ至リ同月ニハ肥後米八百九十五匁、七月ニハ一貫百八十匁五分トナリ尙益昂騰セントスルノ勢アリ。盖下ノ關兩岸ヲ長州軍ニ占領セラレシ爲メ、西國北陸ノ米穀大阪積登セ皆無トナリシコトソノ主因也。乃幕府ハ酒造三分ノ一ヲ令シ^(六)或ハ公邊ニ於テモ外國米御買入相成候筈ニ候得者潤澤之爲外國米買入賣捌不苦候間外國商人共ヨリ勝手次第買入候様可致候ト令シ^(十)大阪市内ニ於テ之ヲ賣ルモノアリシモ、市民之ヲ厭ヒテ用フル者ナカリシトイフ。⁽²⁸⁾然レトモ外米輸入ハ幕末開港ノ結果始メテ採用スルヲ得タル方法ニ

(26) 大阪市史、第二、939頁。堂島舊記、452頁。
(27) 日本社會辭彙、上、313頁。續徳川實記、五、622頁。
(28) 大阪市史、二、951頁以下。堂島舊記、455頁。

シテ從來嘗テ存セサリシ點ニ於テ注意ニ値スルモノトイフヘシ。翌年五月長州事件收マリ六月以後下ノ關港通船自在トナリ、且氣候適順ニシテ豐作ナリシタメ、五月尙一貫百六十五匁ヲ唱ヘタルモノ、十月ニハ五百九十匁、十二月ニハ六百五十匁トナリ米價ハ俄然下落スルニ至レリ。⁽²⁹⁾

六 結 言

以上徳川時代ニオケル米一揆ニ就キテソノ主要ナルモノヲ述ベタルガ、イマ之ヲ概括スレハ米價ノ暴騰ニ苦メル細民ガソノ困苦ニ堪ヘスシテ一揆ヲ起シ、米商富豪ヲ襲ヒテ家宅ヲ破壊シ、低價強買(或ハ掠奪)ノ不法ヲ敢テセルモノニシテ之レニ對スル官憲ノ應急策トシテハ幕府自ラ米錢ヲ施與シ、廉價販賣ヲ行ヒ又小賣米商ヲ保護シテ家業ヲ營マシメ、暴民ヲ逮捕シ嚴罰ニ處スルト共ニ暴民取締ノ爲メニ各町ノ自衛ヲ計リ、外出ノ禁止等ヲ令シ、又富豪及特志者ヲ促シテ窮民ノ救恤ヲ行ハシメ、其他廻米策、消費節約、酒造制限、囤米賣出等種々ノ米價調節策ヲ併セ行ヘルモノナルガ、之ヲ大正ノ米騷動ニ比センカ、相類スル所ノモノ甚タ多クカノ天明ノ打毀ノ記事ノ如キ宛然最近ノ騷擾ヲ彷彿スルニ足ルモノアリ。嗚呼眞ニ歴史ハ繰返スモノナル歟、非カ。

徳川時代ニ於ケル米一揆ハ以上述ヘタルカ如ク何レモ國民日常生活ノ危殆ニ瀕スルニ及ンテ起レルモノニシテソノ情ニ於テハ寧ロ憐レムヘキモノアリ。慶應ノ打毀ニ當リ高麗橋畔ニ「乍恐今

(29) 大阪市史、二、940頁以下。前掲拙著、311頁。

じめつ(自滅)爲致吳候歟又ハ米三百目位ニ爲致吳候哉、右兩用共出來かたく候へは上町初市中墨ニ致候間乍恐御返答承度、此段張紙を以奉願上候。以上月日。難澁者々、御老中様」トイヘル張紙アリシ由ナルガ、天明ノ暴動ニ於テモ類似ノ記事アリ、以テ暴動ノ性質ヲ見ルヘク、細民ノ窮情ハ將ニ生カ死カツノ一ヲ選ハサル可ラサルニ立チ迫レルモノアルヲ想見スルニ難カラサル也。サレハ彼等ノ打毀ハモトヨリ政治上ノ暴動トハソノ趣ヲ異ニスト雖、彼等カ米商ノ外、尙富豪ヲ襲ヘルコトアルヨリ見レハ所謂貧富ノ懸隔ニ對スル觀念ノ如キ又多少コレナキニ非ルカ如シ。(30)田沼時代ノ流行歌トイフヲ見ルニ「世にあふは道樂ものにおびりものころび藝者に山師運上」トイフアリ。コハモトヨリ一般ニ風俗ノ頹廢セルコトヲイヘルモノナルガ、所謂おびりものノ跋扈ハ遂ニ貧民階級ノ反感ヲ生セサルヲ得サルヘク、カノ富豪ニ對スル打毀ハ又一面ニ於テコノ感念ヲ示スモノニ非ルカ、但大正ニオケル成金氣分ニ對スル反感トハモトヨリ同日ノ論ニ非ルヘキ也。ソハ兎モ角、以上ノ如ク暴動ノ原因カ主トシテ生活ノ窮迫ニ在リトスレハ、之レカ原因ヲ除カサル限り忌ムヘキ米一揆ハ細民階級ニヨリテ再三繰返サルヘキ蓋然性ヲ有スルモノトイフヘク、暴徒ヲ嚴刑ニ處スルコトニヨリテ之ヲ根絶セントイフカ如キハ木ニ縁リテ魚ヲ求ムルノ類ノミ。刑ハ刑ナキヲ期ス。事後ノ嚴罰ヨリハ寧ロ米價ノ調節カ重要問題ナラスヤ。コレ本稿ニ於テ余カ往々ニシテ暴動ノ前後ニオケル米價及ヒ調節策ヲ併論シ、米價ノ下落スルニ至レル経路ヲ略述セ

(30) 大阪市史二、940頁

(31) 日本社會辭彙上、313頁、日本橋區史、四、551頁、ハ共ニ徳川時代ノ打毀ヲ行ハレテ「江戸ニオケル一種ノ社會的制裁」ナリトイヘルモノ、打毀ハ江戸ノミニ行ハレタルモノニ非ス可社會的制裁、イフテ

ル所以也。而モ以上説ク所ニヨリテ考フレハ、寶曆五年ニ打毀ノ風説ニ恐レテ米商カソノ持米ヲ吐キ出シ、市場在米ノ豊富トナリタル爲メ米價十匁餘ノ下落ヲ生シタルコトハ、暴動(未遂)ト米價トガ直接ニ相反應セル事例ナルハシト雖、ソノ他ノ多クノ場合ニ於テハ暴動ハ米價ニ影響ナク、又ハタダ一時ノ變動ヲ生シタルニ止マリ、ソノ應急策并ニ其後ノ調節策ノ如キモ、天明七年ノ江戸打毀ノ後、廻米政策ノ功ヲ奏シタル外ハ、多クハ後年ニオケル秋納ノ豊饒ナリシニヨリテ漸ク米價ノ下落ヲ見、又慶應ノ打毀ノ後ニハ米價一時下落シタルモ又忽チ暴騰シ、遂ニ征長事件解決シ下關通船ノ自由トナルニ至リテ全ク下落スルニ至リシカ如キ、要スルニ人爲的調節策ニヨルヨリモ自然的調節(33)ニヨリテ米價ノ著シキ下落ヲ見タルコト多カリシカ如シ。コハ徳川時代ニオケル一般米價調節策ノ場合ト異ル所ナキモノニシテ、暴動ハ救済策ヲ喚起シ細民焦眉ノ急ヲ救フニ效アリシナランモ、之レニヨリテ米價ヲ直接且ツ確實ニ左右スルヲ得サリシコトヲ知ラサル可ラス。

(33) 拙著 江戸幕府ノ米價調節参照、